

日本語能力試験N1対策

担当教員 蔣

修正日：2020.7.1

履修単位数：2

6月8日以降 AM:9:30~/PM:13:30~

授業スケジュール/計画

			AM	PM
1	5月14日	木		N1対策 (ZOOM)
2	5月16日	土	N1対策 (ZOOM)	
3	5月18日	月	N1対策 (ZOOM)	
4	5月21日	木		N1対策 (ZOOM)
5	5月25日	月	N1対策 (ZOOM)	
6	5月27日	水	N1対策 (ZOOM)	
7	5月28日	木		N1対策 (ZOOM)
8	5月30日	土	N1対策 (ZOOM)	
9	6月4日	木		N1対策 (ZOOM)
10	6月5日	金		N1対策 (ZOOM)
11	6月6日	土	N1対策 (ZOOM)	
12	6月15日	月	N1対策 (対面+ZOOM)	
13	6月20日	土	N1対策 (対面+ZOOM)	
14	6月22日	月	N1対策 (対面+ZOOM)	
15	6月27日	土	N1対策 (対面+ZOOM)	
16	6月29日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
17	7月6日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
18	7月13日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
19	7月25日	土	N1対策 (対面+ZOOM) (9時~302)	
20	8月1日	土	N1対策 (対面+ZOOM) (9時~402)	
21	8月10日	月	N1対策 (対面+ZOOM3) 701 (8月8日補講のため)	

学習目標

日本語能力試験を合格すること

予習・準備物

筆記用具

注意事項

取り組み姿勢による採点

評価方法

自主性を伴った授業出席で評価します。

シルクスクリーン2

担当教員 東樋口徹

受講アトリエ [402、工房] 修得単位：2単位

2020/6/8(月)-2020/6/29(月)

9：30-12：40 13：30-16：30

授業内容

基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4/21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3/29.7cm×42cm）を一点（紙8枚程度）制作。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月8日	月		日本語能力試験N1	○	オリエンテーション・技法説明	
2	6月9日	火		現代美術演習A		絵画技法実習(安藤)	
3	6月10日	水	○	技法説明 (PCを使用した4色分解)	○	技法説明・制作	
4	6月11日	木		版画概論		制作	
5	6月12日	金		制作		制作	
6	6月13日	土		制作/日本語能力試験N1/フランス語		映像ワークショップ	
7	6月14日	日					
8	6月15日	月		制作/日本語能力試験N1	○	色々な刷り方説明	
9	6月16日	火		現代美術演習A		絵画技法実習(安藤)	
10	6月17日	水		制作		制作	
11	6月18日	木		版画概論	○	制作	
12	6月19日	金		現代美術演習A		制作	
13	6月20日	土		制作/日本語能力試験N1/フランス語		制作/映像ワークショップ	
14	6月21日	日					
15	6月22日	月		制作/日本語能力試験N1	○	制作	
16	6月23日	火		現代美術演習A		絵画技法実習(安藤)	
17	6月24日	水		制作		制作	
18	6月25日	木		版画概論	○	制作	
19	6月26日	金		制作		絵画技法実習(工藤)	
20	6月27日	土		制作/日本語能力試験N1/フランス語	○	制作	
21	6月28日	日					
22	6月29日	月		制作/日本語能力試験N1	○	講評	

学習目標

シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し環境にやさしい水性インクを使用し刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×38cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

予習・準備物

写真orイラストのデータ(200~300ppi程度の解像度でA4サイズ程度)、下絵(A3程度)、紙コップ、プラスチックスプーン、ウェス（ボロ布）、新聞紙、用紙（いづみまたは厚紙ケント紙）、制作マニュアル、マスキングテープ、試し刷り用紙（なんでも可）

注意事項

初日までにPCを使用した4色分解による作品用の写真orイラストのデータを用意すること。(短辺が1500pixel以上の物)

評価方法

習熟度と提出課題による採点

2年 ファインアート科

現代美術演習 A

2020.5.25修正

担当教員 山本 晶

受講アトリエ [] 修得単位：1単位

2020/6/9(火)-2020/7/24(金)

9:00-12:10

授業内容

発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。美術の様々な表現方法を分析しテーマに対してどのように実践をするか演習します。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月9日	火	○	オリエンテーション		絵画技法	自宅にある画材（紙類や絵具・色鉛筆・ペンなど）や道具（のり・ボンドやハサミ・カッターなど）を準備
2	6月16日	火	○	自己と表現と人の考え		絵画技法	1年次に制作した作品1点 描画材・スケッチブックあるいは水彩紙など
3	6月19日	金	○			実技カリキュラム	
4	6月23日	火	○	描かれるもの		絵画技法	支持体となる水彩紙・キャンバス以外の描画材
5	6月30日	火	○	色について		絵画技法	水彩絵具・水彩紙
6	7月7日	火	○	破壊と再構成の自画像		絵画技法	雑誌・本・ポスター等
7	7月14日	火	○	拡張する絵画		絵画技法	水彩紙（B2）・画材
8	7月24日	金	○	講評		実技カリキュラム	

※全てZOOMによるリモート授業になります

学習目標

より一層多様化する美術表現に対する理解力を身につける。

予習・準備物

オリエンテーション（初日）は自宅にある画材や道具を用意しておいてください。各授業の最後に次回準備するものをお伝えします。

注意事項

学校ではカルトンを貸し出しできましたが、自宅での作業ですのでカルトンやパネルなどの画板を準備してください。

毎回制作した作品をスマートフォンなどで撮影し画像として保存してください（複数・様々な角度から撮っておくことをおすすめします）。※ファイル形式はjpeg推奨 1枚につき最大でも5MB以下

評価方法

制作姿勢・作品・出席による採点

絵画技法実習

担当教員 安藤孝浩

受講アトリエ [要町アトリエ3F] 修得単位：2単位

2020/6/9(火)-2020/7/28(火)

13：30-16：30

授業内容

北方ルネサンスから20世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法(安藤)、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユ(工藤)を中心に学ぶ。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月9日	火		現代美術演習A	○	オリエンテーション 下地塗り3層乾燥後に図版の写し	図版は予め学生が準備
2	6月16日	火		現代美術演習A	○	地透層 (インプリマトゥーラ) 白色浮出	卵テンペラ 溶油の調合 他
3	6月23日	火		現代美術演習A	○	油絵の具1層目及び白色浮出	
4	6月30日	火		現代美術演習A	○	油絵の具2層目及び白色浮出	
5	7月7日	火		現代美術演習A	○	制作	
6	7月14日	火		現代美術演習A	○	制作	
7	7月21日	火		現代美術演習B	○	制作	
8	7月28日	火		現代美術演習B	○	講評	採点

学習目標

ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。

予習・準備物

描きたい人物の図版(写真)を各自準備する。図版はなるべく陰影があるものが望ましい。

尚図版は初日オリエンテーションの際に講師がチェックします。描きにくい図版の場合変更してもら場合があります。

注意事項

評価方法

提出課題による採点

- 制作期間に見合う十分な完成度があるか
- 技術的な側面として混合技法の特徴を引き出した作品であるか
- 絵画表現として豊かな感性が感じられるか等

版画概論

担当教員 天野純治

受講アトリエ【 】 修得単位：1単位

2020/6/11(木)-2020/8/13(木)

11：10-12：40

授業内容

作品の鑑賞。ポップアート以降の現代美術史及び作品の研究を行い、今に至る美術史を学ぶ。そこから個々の制作に客観性と作品へのコンセプトを考えていく。また、自身の作品についての発表と全員での意見交換を行う。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月11日	木	○	版画概論授業説明 現代版画①		実技カリキュラム	
2	6月18日	木	○	現代版画②ポップアート以前		実技カリキュラム	
3	6月25日	木	○	現代版画③ポップアート		実技カリキュラム	
4	7月2日	木	○	現代版画④ポップアート、オブティカルアート		実技カリキュラム	
5	7月9日	木	○	現代版画⑤プライマリーストラクチャー、ミニマルアート		実技カリキュラム	
6	7月16日	木	○	現代版画⑥コンセプチュアルアート、現代美術		実技カリキュラム	
7	7月23日	木	○	現代版画⑦現代美術と版表現		実技カリキュラム	
8	7月30日	木	○	現代版画⑧版表現のいま		実技カリキュラム	
9	8月6日	木	○	プレゼンテーション、		実技カリキュラム	
10	8月13日	木	○	プレゼンテーション、講評		実技カリキュラム	

学習目標

作品を制作する時、感覚ともう一つ重要な要素として 作品への思考（コンセプト）があります。この授業ではここに焦点をあて作品鑑賞や現代の美術史を研究することからコンセプトの重要性を考えていきます。そして個々の制作の可能性を拡げることを目標とします。最後に個々の作品と、その作品に対してのプレゼンテーションを行います。

予習・準備物

各自、日常的に展覧会(画廊、美術館)を多く見ることから客観性を意識し、作品の持つ考え（コンセプト）に対して考察を行う。

注意事項

積極性を持って授業に参加してください。

評価方法

授業での積極性。 自身の作品のプレゼンテーション、および研究発表。

絵画技法実習

担当教員 工藤礼二郎

受講アトリエ [] 修得単位：2単位

2020/6/26(金)-2020/9/25(金)

9：30-12：40 13：30-16：30

授業内容

北方ルネサンスから20世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法(安藤)、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユ(工藤)を中心に学ぶ。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月26日	金		実技カリキュラム	○	オリエンテーリング技法説明、制作	グリザイユ
2	7月3日	金		実技カリキュラム	○	制作	↓
3	7月10日	金		実技カリキュラム	○	制作	↓
4	7月17日	金		実技カリキュラム	○	制作	↓
5	7月31日	金	○	制作、講評		実技カリキュラム	↓
6	9月4日	金		実技カリキュラム	○	水張り、技法説明、制作	水彩
7	9月11日	金		実技カリキュラム	○	制作	↓
8	9月25日	金		実技カリキュラム	○	制作、講評	↓

学習目標

ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。

予習・準備物

モノクロの人物写真(顔) サイズ227x158mm(タテ・ヨコ自由)をA4の紙にプリントアウトしたもの 面相筆、平筆(小)

注意事項

評価方法

提出課題による採点

リトグラフA

担当教員 中村真理

受講アトリエ [402・工房] 修得単位：2単位

2020/7/1(水)-2020/7/18(土)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	7月1日	水	○	オリエンテーション、道具の説明	○	版の準備、描画、製版デモ	
2	7月2日	木		版画概論		描画	
3	7月3日	金		絵画技法実習(工藤)		描画	
4	7月4日	土		日本語能力試験N1/フランス語		描画	
5	7月5日	日					
6	7月6日	月		描画		描画、製版	
7	7月7日	火		現代美術演習A		絵画技法実習(安藤)	
8	7月8日	水	○	製版、刷りのデモ	○	試しの版の刷り全員終了	
9	7月9日	木		版画概論		描画	
10	7月10日	金		描画		絵画技法実習(工藤)	
11	7月11日	土		フランス語		描画	
12	7月12日	日					
13	7月13日	月		美術日本語		描画	
14	7月14日	火		現代美術演習A		絵画技法実習(安藤)	
15	7月15日	水		描画、製版		製版、刷り	
16	7月16日	木		版画概論	○	刷り	
17	7月17日	金		製版、刷り		絵画技法実習(工藤)	
18	7月18日	土		合同講評ガイダンス	○	講評	

学習目標

講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

予習・準備物

アルミ版(45.5×60.6cm)制作のもとになるエスキース、ウエス、新聞紙、紙(上質紙、いづみ等)、描画材(ダーマトグラフ、リトクレヨン、とき墨、油性ボールペン等)、筆、マスキングテープ等

注意事項

作業行程の多い技法です、計画的に進めること。オリエンテーションまでに作品の元となるエスキースは仕上げてください。アルミ版は上記のものを半分に裁断し使用します、1枚は試しの版として使い、もう1枚を提出用の作品として制作します。

評価方法

提出課題による採点

銅版画2

担当教員 山本剛史

2020/7/20(月)-2020/8/3(月)

受講アトリエ [402、工房] 修得単位：3単位

9：30-12：40 13：30-16：30

授業内容

エッチング、アクアチント、ドライポイント、リフトグラウンド、ソフトグラウンドエッチング、など銅版画の代表的な技法を紹介します。製版と刷り作業を実演した後、2つ以上の技法を選択し作品制作へと進んでもらいます。『提出用作品』は2枚を予定しています。支持体となる版画用紙はハーネミュールを使用。画面サイズ200×280mm。紙サイズ300×380mm。刷り上げた作品にはサインとエディションを入れて提出していただきます。最後は講評会にて、実際にやってみた感想とそれぞれの作品について皆で話し合い授業を終了とします。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	7月20日	月		美術日本語	○	オリエンテーション	
2	7月21日	火		現代美術演習B		絵画技法実習(安藤)	
3	7月22日	水		制作	○	実演/講義	
4	7月23日	木		版画概論	○	制作	
5	7月24日	金		現代美術演習A	○	実演/講義	
6	7月25日	土		制作/フランス語		制作	
7	7月26日	日					
8	7月27日	月		制作	○	試作チェック	
9	7月28日	火		現代美術演習B		絵画技法実習(安藤)	
10	7月29日	水		制作	○	実演/講義	
11	7月30日	木		版画概論	○	試作チェック	
12	7月31日	金		制作		絵画技法実習(工藤)	
13	8月1日	土		制作/フランス語	○	試作チェック	
14	8月2日	日					
15	8月3日	月		制作	○	講評会	

学習目標

銅版画技法に触れ、この面白さを体感し、今後の制作プロセスの幅を広げて頂ければと思います。銅版画には色々な技法がありますが、その中のいくつかを組み合わせ、自身の作品を制作してもらいます。版画表現は『写し取る』ことによって初めて成立する独特な手法です。どの工程においても丁寧に取り組むことが、作品に驚くほど影響します。この体験によって制作態度における誠意の大切さと『写し取った』自らの作品に對面する新鮮な驚きを学習して頂きたいです。

予習・準備物

予習：自分なりに過去の、そして現代までの版画作品を紐解き、好みの作品や版種などを2、3点見つけておいて下さい。準備物：◇インク(グラフィックケミカル/No135c stiff Black)(シャルボネ/セピア・ザンギュイン)(文房堂・白)◇グラウンド(文房堂)&(シャルボネ固形)◇裏止め用ワニス◇塩化ビニールシート◇リグロイン◇プリントクリーナー◇人絹◇寒冷紗◇ニードル人数分◇ハーネミュール(学生購入)◇ピカール◇松脂等アクアセット◇ポスターカラー白&平筆、リフトグラウンドセット◇ソフトグラウンド固形

注意事項

版画はその成り立ち上、『一気にやっつける』という手法では作品を仕上げられません。どの工程も分かちがたく意味を持ち、逆に申し上げるなら工程を丁寧に身につければ、作品の質の高さや新しい自分の個性を見いだせるチャンスは高まります。そのことをいつも念頭に置き、授業に臨んで下さい。版画にとって『紙』及び『道具』の扱いは大切です。授業の中で折々触れて参りますのでその扱いの基礎をしっかり聞き取り、実践していくよう取り組んでください。

評価方法

課題作品70% 制作態度・積極性30%

現代美術演習B

担当教員 黒瀬陽平

受講アトリエ [] 修得単位：1単位

2020/7/21(火)-2020/9/29(火)

9：30-12：40

授業内容

現代美術への理解を深め、作品制作のヒントを得るために、レクチャーと課題&講評会、課外授業を組み合わせたカリキュラムを行います。レクチャーでは、現代美術についての原理的な解説、日本現代美術史と戦後日本文化全般の解説を中心に行います。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	7月21日	火	○	オリエンテーション		絵画技法(安藤)	
2	7月28日	火	○	レクチャー②(課題①出題)		絵画技法(安藤)	
3	8月4日	火	○	【課外授業】美術館解説ツアー①		実技カリキュラム	
4	8月11日	火	○	課題①講評会+レクチャー②		実技カリキュラム	
5	9月1日	火	○	レクチャー③(課題②出題)		実技カリキュラム	
6	9月8日	火	○	課題②講評会+レクチャー④		実技カリキュラム	
7	9月15日	火	○	【課外授業】美術館解説ツアー②		実技カリキュラム	
8	9月29日	火	○	講評		実技カリキュラム	

学習目標

現代の視覚文化は映像を媒体としたコンテンツを抜きにして成立しません。サブカルチャーからハイカルチャーまで、映像というメディアがどのような役割を果たし、どのように展開したのか。本講義では主に戦後日本を中心としてアニメや映画、ゲームなどの映像コンテンツが表現してきたものを読み解いていきます。

予習・準備物

授業内でその都度指示する

注意事項

特になし

評価方法

授業態度及び提出課題による採点

ドローイングA

担当教員 鈴木吐志哉

受講アトリエ [402、工房] 修得単位：3単位

2020/8/4(火)-2020/8/15(土)

9：30-12：40 13：30-16：30

授業内容

サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える時間とする。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	8月4日	火		現代美術演習B	○	ガイダンス・作家紹介	
2	8月5日	水		制作	○	屋上落書きドローイング	
3	8月6日	木		版画概論		制作	
4	8月7日	金	○	制作	○	制作	
5	8月8日	土		制作/フランス語	○	ディスカッション1	
6	8月9日	日					
7	8月10日	月		制作		制作	
8	8月11日	火		現代美術演習B		制作	
9	8月12日	水		制作	○	ディスカッション2	
10	8月13日	木		版画概論		制作	
11	8月14日	金		制作		制作	
12	8月15日	土		制作/フランス語	○	講評会	

学習目標

版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。

予習・準備物

■各自あらかじめ、画集などでドローイングについて調べて置く事が望ましい。

注意事項

■危険を伴うもの等の特殊な事項については講師と相談すること。

評価方法

■作品内容（サイズもしくは枚数を特に重視）